

# 常警日新聞

定価 一部五銭 二部五銭 郵費五銭  
 廣告料 五銭 十銭 二十銭 三十銭 五十銭 一円  
 日曜 祭日の翌日 休刊  
 発行所 常警日新聞社 電話 六二〇  
 印刷所 常警日新聞社 印刷機 株式会社

## 平町を觀る (7)

山口彌一郎

九、平町を中心とする交通

昔は江戸から仙臺に通ずる陸前濱街道の略中間驛市として繁榮した平町は濱街道に沿うて常磐線が開通し阿武隈山脈を切る夏井川の谷に沿うて磐越東線が通じ殊に平、上野間は東北地方唯一の複線で一年の乗降客數二、三〇〇、〇〇〇人一日平均六、五〇〇人に達する。貨物も五七、〇〇〇噸の發送に對して二一九、〇〇〇噸近くの到着噸數を示してゐる。

最近の自動車交通の發達は殊に目覺ましく近距離交通に於ては鐵道を壓する始末である。現在平町より定期に發する地方は四ツ倉、江名、小名濱、湯本、好間、赤井、小川郷方面で約四二臺位の乗合が通ひ尚ほ貨物自動車も二三臺位あつて鐵道と競争裡に立つて水戸、東京方面にまでその觸手を延ばしてゐる。その外町内には一五臺のタクシーが働いてゐる。

一〇、商 圈  
 平町の商圏は水戸、郡山、仙臺の商圏に接してゐる。

その境界は明瞭なものではなく漸移的であるが水戸方面では平瀉、大津附近、郡山方面では小野新町、仙臺方面では原町附近である。此の圏内には尚ほ多くの小核心があつて完全に平町に握られてゐる小核心都市は勿來、植田、小名濱、江名、湯本、四ツ倉、久ノ濱位で石城郡の略々全地域と双葉郡の久ノ濱、大久、廣野、木戸、瀧田の諸村であらう

此の圏内には約二三〇、〇〇〇の人が住んでゐて平町は此等の人々に依つて支へられてゐるとも見る事が出来る。然し實際農業、水産業、鑛業等の生活に従つてゐる人口は約一六〇、〇〇〇人で他の商工業交通業その他の七〇、〇〇〇人を支へてゐることになる。即ち

押し付けられてこゝろ澤庵は美味になる人も艱難に堪へてこそ初めて滋味が出る

商工業以下の職業に従事する都市的ない人を二三人の生産人口で支へてゐる事になる。これは他地方に比較して相當過重な支へ方で當地方總じて都市的色彩の強い事を意味し經濟的動きの激しい一方生活に餘裕の少

ない譯になるではなからうかと思はれる。現在平町の農業、水産業鑛業等を除く實際の都市的特色のある人口は約二五、〇〇〇人ある。これで先の石城郡及び双葉郡の一部の田圃に働く生産人口一六〇、〇〇〇人を支へるとすれば一人に對して六、四人は少くとも相手にしなければならぬ。即ち平町の人一人は少なくとも六、四人に依つて支へられてゐる譯になると思ふ。尚ほもつと商圏を小さく直接平町に物の賣買ひをする五軒半經位の神谷草野、飯野、夏井、高久、鹿島、内郷、好間、赤井、平窪、下小川、上小川位に就いてみる方法もあらうと思ふが、平町を支へる極限の商圏を基礎として發展を考へるのでなければ地方的中心都市としての健全な生長は遂げ得ないではなからうかと思はれる。

二明日の献立  
 【朝】みそ汁、春菊、油揚げ、木の子、芽田樂、竹の子、くわあ  
 【晩】わん、三つ葉、玉子とじ、またはにら

旭硝子株式會社製品  
 赤菱印  
 板ガラス  
 硝子食器  
 其他各種

松崎硝子製作所  
 平町新川町(電話二四二番)  
 支工場 仙臺市榮町(電話五九七番)

新學期の裁縫用具は  
**ハシモトヤへ!**  
 女學生用カバン  
 澤山入荷しました。  
**田町 ハシモトヤ糸店**  
 電話 十四番  
 (少年店員募集)

**外科**  
 X光線科  
 性病科  
 外科  
 平町 田町  
**安齊外科醫院**  
 電話 四七五番  
 入院隨意

旭硝子株式會社製品  
 赤菱印  
**板ガラス**  
 硝子食器  
 其他各種  
**松崎硝子製作所**  
 平町新川町(電話二四二番)  
 支工場 仙臺市榮町(電話五九七番)

**耳鼻咽喉科専門**  
 平町田町七〇番地  
**山内醫院**  
 醫學士 山内亨吉  
 電話 六九一  
 入院 應需

**吸入用酸素** 純度 99%  
 度量衡  
 モノサシ  
 マス  
 ハカリ  
 体温器  
 寒暖計  
**關内藥局**  
 電話 四〇番

**玉屋洋品店**  
 平町田町通電話 六五六番  


磐城セメント會社特約店  
**久益屋商店**  
 磐城平町五丁目 電話 九番九九番  
 良品廉賣に勝る商略なし  
 確實敏捷は 〆 の生命なり

**中村齒科醫院**  
 平町 鍛町 七

# 八丈島沖から 鯉群漸次北上

## 各濱一齊に活気つく

石城郡小名濱、江名等の遠洋漁船は過般來鯉漁獲の準備中であるが、漁場調査中の縣立小名濱水産試験場指導船磐城丸からの通信によると、目下の鯉漁場は八丈島沖合で漁獲物の陸上困難の箇所なので、来月初旬より鯉群の北上するのを待つて石城郡下各鯉漁船は一齊に出航すべく準備を急いでおり、各濱は既に活気横溢してゐる。

### 大浦養蠶役員

石城郡大浦養蠶實行組合では来る廿九日午後一時より幹部會を開き幹部役員の改選及び本年度事業の計畫等に就いて協議すると。

### 錦村産業協議

石城郡錦村では産業五ヶ年計畫實施の爲め、廿五日午後一時より村役場に於いて經濟更生第一回委員會を催した。

# 新聞を教材に... 生きた常識教育

## 平商業學校の試み

平商業學校にては今年より各種新聞を教材にして毎週一回ニュース教育を行ひ常識涵養をはかる事になつたが、先づ最初は新聞の使命に就いての知識及び新聞の味讀法を授けるとの事で此れに就いて矢野校長は語る。

### 植田民政派

#### 役員改選決定

石城郡植田民政俱樂部定期總會は二十二日午後二時から植田町八幡公園において觀櫻會を兼ねて開催、宣言可決の後来るべき町會議員選舉に對し現在の政十民八を逆轉すべく申合せ比佐代議士の祝辭演説あり午後四時半盛會裡に散會した。△會長小川福太郎△副會長坂本龜太郎、片岡章△常務顧問鷲清昇△常任幹事成瀬巴三、櫻村清、小宅康夫、赤津甚吉、鈴木八右衛門、小野保、橋本次郎△總務委員小野忠衛、外五名△相談役古川定次郎外十三名。

# 兎は茶色を獎勵

## 郡農會で移入準備

石城郡農會では從來各農村に飼育を獎勵して來た養兎種類は主に陸軍被服廠に納入する關係上白色兎を飼育せしめて居たが、今回陸軍では防寒用毛皮類の色彩を茶褐色或はゴマ毛色に變更し本年度にも大量買上を行ふので同會では近く茶色ゴマ色等の優良兎を移入して繁殖せしめる豫定であると。

### 海軍入團者

#### 平町役場に豫備教育

過般本年度海軍志願兵として平町より採用された看護兵塚越武行、電信兵菅野政市の兩君を役場會議室に於いて入團豫備教育を執行した。

# 甞生運動

## 有志躍起奔走

石城郡磐崎村信用組合は一昨年より營業不振の爲め殆んど解散同様の状態にあつたが、農村經濟更生の叫びれる今日一ツの金融機關も無くてはと折内村農會會長其他の有志は新たに信用販賣

### クレー射撃に

### 杉山氏優勝

石城郡赤井村杉山今朝吉氏は去る廿三日中村町で開催された濱三郡クレー射撃大會に出場して優勝し優勝旗を獲得した。

### 販賣案協議

濱三郡木炭同業組合では木炭縣營検査の實施期が愈々迫つて來たので、来月中旬頃組合總會を開き縣營實施後の具体案に就いて協議する

購置組合を設立すべく村有志間を運動中であると。

濱木炭組合で

第二の先生が 小學校の津田校長先生は今年こそは児童の成績向上を計り總べての点に於て他の學校の模範たる良い學校にせねばならぬと種々研究中の處結局學校の先生たるものは一日も教育といふ事を忘れてはならないと此の程全職員に教育記録といふノートを各一冊宛持たせる事になつたがノートに書きつける事柄は何等制限なく兒童教育に關する事なら何んでも書くのだそうである。

# 美味! 芳醇! 宗正らひた

山崎合名會社 電話一〇番

# 三井タクシ

平町二丁目 電話八六五番

妊娠を望む方は使用すべからず 男女安全豫防薬

# 新發賣 志のぶ錠

しづ錠は花柳病の豫防薬たるのみならず〇〇〇〇の外ユシケ、子宮、内膜炎、腫加答兒並に婦人〇部の癢痒等の治療の目的に用ひられる事で即ち〇〇の豫防と治療の二重奏をなします

專賣所 阿康藥舖 平古鍛冶町(電話四四番)

# 耳鼻咽喉科専門

## 氣管食道科

平南町(電話一七〇番)

# 大和田醫院

セメント 磐城セメント株式會社 壁用材料 西村屋藥舖 代理店 西村屋藥舖 平町二丁目 電話三〇九番

# 花柳科専門

# 木村外科醫院

入院自炊の便あり 平町五丁目橋際 電話三〇九番

# 家政婦

# 上原家政婦會

御申込早速お手傳ひに 料金は極めて低廉です 平町紺屋町二(電呼六五二)

### 天候に恵まれ

## 大當りの松ヶ岡

### 各賣店もホク／＼顔

## 十年來の好景氣

平町松ヶ岡公園及び新川端の櫻は開花以來雨らしい雨にも見舞はれず幾分寒がった感みはあれど連日花見客で大賑を呈し公園内の臨時賣店並に藝妓連中も存分な稼ぎが出来たに物凄く鼻息であつた二十三日の雨日の土曜日曜であり廿五日のお花見も閉幕であるが開花から満開まで雨のないお花見が出来たことは十數年來かつてなかつたことであると

## 警中懇談會

校長から先生へ

警城中學新校長小楢山久作氏は本日午後二時より會議室に於て難談會を開き生徒を教育する上に於ては自分の全体を知つて戴く事が必要であるとし全職員に對し教授及び訓練、私生活並に興味等に就いて細々と希望を述べた

## 遺産を折半して

## 圓滿示談成立

## 夏井の御家騒動

既報石城郡夏井村大字花由自元平町第二小學校員矢吹きく(五)が數萬圓を遺して昨年五月死亡したことに端を發し實子(戸籍上は他人)矢吹彌右衛門(三)と親族會議の決定相續人矢吹正二(三)とが右遺産をめぐる御家騒動は昨年七月以來平支部に於て彌右衛門側は大嶺武田正二方は千葉門傳各辯護人が必死の係争を續けて來たが裁判所側の示談勸告により遺産を折半すること

## 平修養會の

## 懇親觀櫻會

平町各學校職員及び關係者より成る修養會にては昨日午後三時より湯殿山に於て懇親會を開いたが出席者は青沼町長、助役、縣會議員町會議員等八十餘名にて先づ當番校代表矢野平商校長

の開會の辭、警中校長、井上茂作氏等の挨拶あつて直ちに宴會に移り午後五時盛會裡に閉會した

## 夫婦になれず

## 女給と駈落

### 平署へ捜査願

仙臺市國分町米穀商西山才次郎長男隆雄(三)は去る廿一日豫て名乗んで居た同市袋小路カフエー東洋方女給原田マキ(一九)との結婚を両親の爲め反對されたので隆

## 死場所を探す

## 家出の十七娘

### 松ヶ岡で平署に救ける

廿三日午後四時頃花見客で雜踏する松ヶ岡公園内を年若い婦人の思案氣に徘徊するのを平署員が怪んで事情を聞くと同人は石城郡好間村大字中好間字鍛冶町八坑夫佐川長一長女サイ(七)で昨年より中耳炎の爲め殆んど耳が聞こえず治療も完全に出來ぬ處から前途を悲觀した結果廿三日朝兩親宛に死を覺悟せる遺書を殘して家出し平町で死場所を探して居たものと判明直に親許に渡された

## 平商業の

## 汽車通學別

平商業學校に於ける本年度汽車通學生は全校生四百二十五名の内百十八名で各驛別は左の如くである

## 平商業二教諭

## 勤續表彰

平商業學校教諭中村政及武川信夫の兩氏は來る五月十日の開校二十週年記念式

明日のラジオ 廿六日 今夜も明日も北東の風曇り雨模様

## 今晚の部

後六、〇〇 子供の時間  
お話「津浪に遭つたお話」と皆様へのお禮のことば「宮城縣桃生郡雄勝小學校訓導

後七、三〇 講演 陸軍大將菱刈隆  
後八、〇〇 靖國神社臨時大祭招魂式狀況(九段靖國神社より中継)  
後九、三〇 時報 ニース氣象通報 番組豫告

## 警中ラクビー

## 東北大會出場

警城中學校ラクビー部にては來る五月七日仙臺第二高等學校明善寮々庭に於て舉行される第四回全關東北中等學校七人制ラクビー大會に出場すべく目下梅森部長指導の下に猛練習中であるが選手は二三日中に決定すると

## 裁判所だより

▽石城郡川前村大字下桶賣字志田名十四番地農酒井晋吉(四)同所三十五番地農大越金作(三)同所十四番地大越長吉(三)と双葉郡川内村大字上川内字木の葉橋一番地木材運搬業三瓶友重(四)同所字福戸平一番地木材運搬業中島村次(三)の五名は昨年十一月十五日双葉郡川内村福戸平山林内に於て骨子茶碗等を使用し丁半と稱する賭博博奕をなし賭博罪として晋吉、金作、村次各罰金三十圓、友重、長吉各罰金二十圓

## 田人苗代講習

郡田人村農會では今廿五日正午より同村小學校に於いて苗代指導講習會を催したが講師は郡農會の柴田技手である

## 平職業紹介所報告

△印・刷見習 十六才 尋卒 仕着小遺(平町某)  
△下・歌職・徒弟 十六才 尋

## 明日の部

前六、三〇 基礎英語講座(八)岡倉由三郎  
前九、一〇 料理献立「生鮭のみを焼く」のくるみ酢ぞへ」阿部やい  
前一〇、三〇 家庭講座發  
後〇、〇五 滿洲より  
後二、〇〇 婦人講座  
後二、三〇 運動競技「東京大學野球聯盟リーグ戦

試合狀況」明治神宮外苑球場より中継  
後六、〇〇 子供の時間 武勇童話「これは明珍鐵兜」江見水蔭  
後六、二五 ことばの講座「漢字の讀み方」玉井 幸助  
後七、三〇 D.K十キロ放送開始祝賀の夕記念講演 長唄 朝鮮流行唄 朝鮮 正樂能樂

御用印刷物の總代理 常磐日報印刷株式會社 電話三六〇番

- △自動車運轉手 二十八才 高卒給料面談(山形縣某)
- △事務員 二十一才 中卒 給料面談(平窪村某)
- △電話交換手 十五才 高卒 給料面談(平町某)
- △自動車助手 十五才 高卒 給料面談(平町某)
- △給仕 十七才 高卒 給料面談(平町某)



# 素来の剣士

【禁轉載上演及映畫】

悟道軒 圓玉 演  
近藤 紫雲 畫

第三百二十三號

佐々木 見山

大六見山に學ぶ

菊地大六は佐々木見山の門人となつて剣術を學ぶ。この事を菊地の弟子が聞いて大六の方が見山よりすぐれてゐると信じて居ることゝしてこれを不思議に思ひ

輝くであらう手前を打ち置きながら勝を譲りくれたは手前を當家譜代の臣と思へばこそ譜代とあらば手前の祖先より當家の臣である手前の不調法に依つて祖先の

大「イヤ御前試合にては手前が勝利を得たがその實は佐々木先生が勝て居る。その證據はこれだ」

左の腕を出した、肉が腫れ上りそこだけ色が變つてゐる

○「これは何の證據になります」

大「佐々木先生の打ちがこゝに入つて居つた」

○「左様にございますかその時先生は打たれたことに心付かなんだか」

大「夢中になつてゐたから少しも氣が付かんよ邸に引取り初めて打たれた事に心付いた、イヤ佐々木先生は名人だナ剣術にのみ達してゐるのみではない其心は立派なものだ品物ならば光



る態度に感心した、師匠大六とともにその門に入り修行することになつた、徳孤ならず必ず隣ありとか申し佐々木の徳によつて菊地も感化された見山はこういふ人物でした、有馬家に浪人分として招へられて居つたが此事あつて以來家中の若侍は皆佐々木に就て武藝を學ぶ從つて殿丞番頭候も見山を重く用ゐます。次に家老の吉田織部は一層佐々木を愛しますと翌年の四月

ながら神詣り又佛閣を訪ふ者も多い何にしてもさすがは將軍家のお膝元とて毎時この邊は特に繁昌いたし居るやうだナ」

庄「左様にございますこの門は狩野元信が建てましてございませう」

佐「馬鹿な事を申すナ元信は畫の大家ではないか畫の先生が門を建てることはあるまい傳説によると飛驒の甚五郎が建てたものだとか

庄「ア成程左甚五郎あの甚五郎といふ人は彫物師でございませうか大工でございませうか日光へ行くとき甚五郎の彫つた睡り猫が御靈所にございませうシテ見ると彫物師のやうにも思はれますが

佐「左様彫刻にもすぐれた腕があつたが本業は大工との事だ庄へエーいつ頃の人でございませう」

庄「三代將軍公時代の者だとは聞いたが何れで終つたかそれもわからず又墳墓も不明であるゆゑ疑へは果してさういふ人物であつたかそれとも假りに甚五郎といふものを拵へたか」

庄「しかし先生三州岡崎の宿屋で甚五郎が水仙をこしらへて紀州様に高く賣りつけたと講釋師が申しますが講釋にあるほどですから居たことと思ひます」

こんな事を話しながら菊屋橋を渡つて廣小路へ來た庄「毎時この土地は人間が

出て居りますねこんなに人があつながら私の知つてゐる

の初旬の事であつたが僕の庄八といふ者を伴つて上野の東照宮に參詣してあれから淺草の觀世音に詣でる

庄「先生大層人が出ますナ

佐「氣候が好いなら遊び

が訪ねても今日は淺草へ行つて不在だといふ者は滅多にございませんシテ見ると江戸は大層人間が居りますナ」

者を訪ねても今日は淺草へ行つて不在だといふ者は滅多にございませんシテ見ると江戸は大層人間が居りますナ」

佐「繁昌な土地だな庄大阪で修行して江戸で儲けて京都に隠居しろといふ事がございませんかし江戸に居つては京都へ引籠る者はありません一升金一升此人達から一文宛儲けたとして百萬から集れば大したものでございませう」

○「喧嘩だ」行つて見ろ

仁王門

の方をさして駆け行く人々

仁王門

の方をさして駆け行く人々

仁王門

の方をさして駆け行く人々

仁王門

の方をさして駆け行く人々

仁王門

の方をさして駆け行く人々

仁王門

の方をさして駆け行く人々

仁王門

の方をさして駆け行く人々

貸切の●●●  
御用命は!!!

獅子吼(四四九)ノ勢デ

眞先ニ……………(マツサキ)

三九ニタクシーへ!!!

木炭代用この上のない經濟の

徳用な 豆炭

壹袋正五貫目入金 八十錢也  
御注文次第御届ケ申シマス

三丁目(電話六六三番)  
磐崎屋酒店

一丁目(電話五九六番)  
菅本武雄商店

白銀町(電話二九九番)  
水野氷店

六丁目  
矢吹石炭商店

平野前(電話三七番)  
阿部石炭商店

◎特約店募集致シマス

お醤油は ヤマフル

醤油味 噌  
たひら 正宗  
鯉節 食料品



山崎合名會社  
福島縣平町(電話營業部ニ醸造工場モ)  
明治生命磐城代理店 山崎與三郎